NPO 法人岡崎がくどうの会

放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート

【クラブ】（たけのこクラブ）　【名前】（　岩井　里真　）

テーマ【児童期の発達と遊び】

今回の研修で一番心に残った事は、塚本先生の講義の中で、子ども達がイカダを作っていて明らかに沈没してしまいそうな作り方をしていたので、声をかけようか迷っていたが、出航後すぐに沈没して戻ってきた子ども達は笑顔で心から「楽しかった～」と言ったそうで、塚本先生は声をかけなくて良かった。もし声をかけていて成功していても、子ども達は心から楽しめなかったかもしれないと思った。というエピソードを聞いて、色々な経験をしてきた大人の目線からは“失敗”に見える事でも、子ども達にとってはそこまでの過程の楽しさや苦労、出来上がった時や一瞬でも乗れた時の喜びを味わえたことの方が大切なのだと感じたことでした。

私は、よく自分の視点で子ども達に口出ししてしまいますが、子ども達の喜びや楽しさ、苦労や悔しさを味わう機会を奪ってしまっているかもしれないと感じました。命の危険に繋がることや、他人に迷惑をかけすぎてしまわなければ、子ども達が楽しく遊びの中で様々な経験ができるよう見守ることを優先したいと思いました。

一方で現代は遊ぶことができる場所の減少やゲーム機の普及に伴い、限られた公園でしかボール遊びができなかったり、家や家の前、あるいはコンセントがある場所でないと遊べなかったりと子どものあそびが昔と比べ変化しています。そういったゲーム機やスマートフォンを楽しいと思う現代の子ども達が、本気で楽しいと思って遊びに取り組めるにはそこまでの環境つくりも大切だと改めて環境づくりの大切さを感じました。

グループワークではどんな遊びが流行っているか等について話し合いましたが、ほとんどのクラブが同じようなあそびや聞いたことのあるあそびをしていて、目新しさはほとんどありませんでした。そうっ言った定番のあそびはいつの時代でも子ども達にとってあそびやすさや、手軽さがある為、失われることが無いあそびなのだと感じました。

クループで１３個の道具の中から様々な遊びを考える話し合いでは、ほとんど案はでてきませんでした。きっと子ども達に同じように物を用意して好きなように遊んでよいと伝えると、様々な遊び方が出てくるのかなと感じました。その一方で、子ども達が勝手に違う使い方で遊んでいたら、私は注意してしまうかもしれないと思いました。そういう時に子ども達を褒めて上げられる保育者にならなければと改めて感じました。